

竹原市歴史民俗資料館

竹原市歴史民俗資料館では地元の製塩業に関連する資料のほか、人々、歴史、文化に関する展示を行っています。

主な展示品は、ジャパニーズウイスキーの父とされている竹鶴政孝（1894-1979）についてです。政孝は1918年にスコットランドに行き、ウイスキーの蒸留の秘訣を学びました。彼はグラスゴー大学で化学の授業を受け、3つのスコッチ蒸留所で見習いをしました。

1920年に帰国後、スコットランド人の妻ジェシー・ロベルタ（リタ）と共に、マサカはニッカウイスキー蒸留会社を設立しました。彼らの話は、日本の全国放送であるNHKの2014年のテレビドラマであるマッサンで語られました。博物館の外には、マサカとリタの銅像があります。

博物館の敷地は、もともと江戸時代（1603～1867）に儒教の学者である塩谷道碩（1703～1764）が住んでいた場所でした。彼の死後、彼の弟子である頼春水と頼春風によって、この邸宅は学術センターになりました。学校は1793年に開校し、春風によって竹原書院と名付けられ、詩朗読会などの文化的イベントが開催されていました。

現在の水色の洋風の建物は、1929年に竹原書院図書館として建てられ、1980年に竹原市歴史民俗博物館になりました。